

自己理解を深めることで主体的な進路選択を促す実践研究

— キャリア・パスポートを活用して —

総合支援部高等学校支援課 長期研修員 樽林 正晃

1 主題設定の理由

近年、学校生活から社会人生活への移行に問題を抱える若者が増え、社会問題となっている。生徒に視点を移せば、働くことへの不安を抱えたまま職業に就き、適応に難しさを感じている状況がある。このような問題を背景としつつ、今日、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すためのキャリア教育の推進・充実への期待が高まっている。「高校教育改革に関する調査2022」(リクルート進学総研)によれば、進路指導上の課題のうち、生徒に関する問題の第1位が「進路選択・決定能力の不足」(51.9%)となっており、全国的に自分の力で進路を選択することができない生徒が多い現状がある。自身の教員経験を省みると、自分で進路を選択できない生徒は進路実現に向けた動き出しが遅い傾向にあり、結果として、焦って受験先を決めてしまったり、受験方法が限られてしまったりしがちである。生徒が安易な進路選択により後悔することがないように、主体的な進路選択を促す指導が求められる。

キャリア形成の概念として、エドガー・H・シャインはキャリア・アンカーを提唱した。キャリア・アンカーとは、人が職業や生き方を決定するための自分の拠り所であり、「欲求(自分はどんなことがしたいのか)」「能力(自分はどんなことができるのか)」「価値観(自分が大切にしている価値は何か)」の3つの要素から構成される。シャインによると、人は経験を重ねるにつれて、遭遇するいくつかの選択を通じて本当に大切だと思うものを確認し始めるという。確認することにより、活用したいと考える大事な「能力」や人生の方向付けを支配する重要な「欲求」や「価値観」がはっきりしてくる。この過程で「欲求」「能力」「価値観」を確認することは自己理解といえる。

シャインの考えのとおり、キャリア選択に自己理解は重要である。一方で、高等学校での教育活動において、自己理解を深める活動が十分とはいえない現状がある。国立教育政策研究所の「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」(2020)によると、高校3年生を対象とした調査のうち、「自分の将来の生き方や進路を考えるために、どのようなことを指導してほしいか」の設問への回答結果の第1位が、「自分の個性や適性(向き・不向き)を考える学習」(33.5%)であった。これは前回の報告書(2013)からも3.6ポイント向上しており、学校の指導体制が社会の変化や学習へのニーズに応えきれていない結果であると考えられる。

そこで本研究は、「生徒の自己理解を深めることで主体的な進路選択を促す」ことを主題とし、生徒の自己理解を深める手立てに、「キャリア・パスポート」を用いることとした。「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。キャリア・パ

スポーツを手立てとした理由は、「見通し」と「振り返り」を繰り返しながら記録を蓄積することができるため、生徒が自分の考え方の変容に気付きやすいと考えたからである。また、行事内容等を変更せずとも実施ができるため、どの学校にも導入がしやすい点も考慮した。

2 研究の目的

仮説「生徒の自己理解が深まれば、キャリア形成を自分ごととして捉えられるようになり、進路への主体性が向上する。」の検証を行う。併せて、キャリア・パスポートを用いた自己理解を深める方法の知見を蓄積する。

3 研究の方法

研究協力校（以下、協力校とする）の第2学年の森林・環境科と総合学科の生徒（森林・環境科 37 名、総合学科 95 名、計 132 名）を対象とし、以下のことを実施した。

(1) 自己理解と進路意識に関するアンケート（6 月、12 月）

(2) 進路行事、学校行事における、キャリア・パスポートを用いた、「見通し」と「振り返り」を意識した事前指導と事後指導

(3) アンケート結果とキャリア・パスポートへの回答から仮説の検証

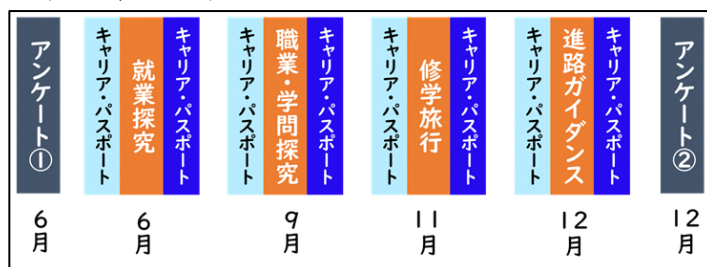


図1 研究のイメージ

4 研究の内容

(1) 本研究における「自己理解」の定義

キャリア教育で育成するとされる基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力の1つに、「自己理解・自己管理能力」がある。「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」（文部科学省、2023）によれば、「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じる」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力、とある。この記述とシャインのキャリア・アンカーを参考に、本研究では「自己理解」を次の3つに定義した（表1）。

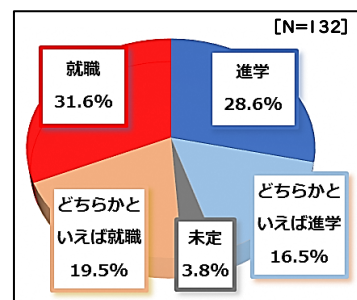
表1 本研究における「自己理解」

- | |
|---|
| ①したいこと・学びたいこと（興味・関心）への気付き
②できること・向いていること（適性）への気付き
③意義を感じる（価値観）への気付き |
|---|

(2) 協力校の実態

ア 協力校の概要

協力校は、森林・環境科、福祉科、総合学科の3学科を有している。図2は、研究の対象である第2学年の森林・環境科と総合学科の生徒の6月の進路希望である。協力校では例年、進学者よりも就職者の割合が大きいという特徴があるが、図2にあるように本年度も同様の傾向である。



イ 協力校の課題

図2 6月時点の進路希望

図2から、はっきりと進路希望が固まっていない層が4割近くいることが読み取れる。第2学年の教員へ聞き取りを行ったところ、進路に関する活動を自分ごととして捉えられない生徒が多いということであった。

(3) 研究の概要説明

6月中旬に協力校を訪問し、第2学年の主任と担任に研究の概要説明を行い、研究の目的や流れについて理解を深めた(図3)。その際、キャリア・パスポートのねらいと重要性を確認するとともに、協力校が抱えている課題を共有した。また、7月初旬には、協力校の第2学年の生徒に、研究概要とキャリア・パスポートの重要性について説明した。



図3 主任・担任への研究概要説明

(4) 事前アンケートの実施

研究開始時における生徒の実態を把握するため、6月下旬に事前アンケートを実施した。質問項目は「自己理解」と「進路意識」に関するものを設け、6件法で回答する質問(「6:よくあてはまる」、「5:あてはまる」、「4:どちらかといえばあてはまる」、「3:どちらかといえばあてはまらない」、「2:あてはまらない」、「1:まったくあてはまらない」)を中心としつつ、選択肢から複数選択するものや記述による回答などの質問も設けた。

(5) キャリア・パスポートの作成にあたって

ア 紙媒体から電子化へ

協力校では、学習や活動の記録を毎学期末に紙媒体で記録させてきた。生徒が記入した紙のポートフォリオは、担任が回収した後、教務課ロッカーに保管される。そのため、生徒は記述内容を見返したいときにすぐに見返すことができないという問題が生じていた。一方、回収せずに、ファイルに綴じて生徒自身が管理をすれば振り返りはしやすくなるが、ファイルを保管するスペースの確保と紛失のリスクが課題となる。そこで、保管場所に困らずに、紛失のリスクも少なく、振り返りがしやすい形式として、電子化を提案した。

イ Google フォームを用いたキャリア・パスポート

前述のとおり、キャリア・パスポートは生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価していくポートフォリ

させることをねらった。

事後キャリア・パスポートでは、表2にあるように、自己理解に関する質問を用意し、記述形式での回答を依頼した。回答例を付けた質問は、表現の仕方の型を設けることにより、生徒の自己理解を引き出すことをねらった。

表2 事後キャリア・パスポート（就業体験）質問

自己理解に働きかける質問事項（＜ ＞内は働きかける自己理解を示している。）
・訪問した事業所の「魅力」に感じたところを記述してください。 ＜興味・関心＞ ・「うまくいった！」「これができるようになった！」と感じたことを記述してください。 ＜適性＞ ・体験を通して気が付いた、「自分のよいところ」を記述してください。 ＜適性＞ ・働くことの意義（目的）について、今考えることを記述してください。 ＜価値観＞ ・「社会に出るために必要だと感じたこと」と「今後の生活で心掛けたいこと」を例のように簡潔に記述してください。 ＜適性＞ 例 「就業探究で〇〇のように感じたので、今後の生活では〇〇を心掛けたい。」

表3は、生徒の回答の一部である。質問に対して、ほとんどの生徒が自分の言葉で記述できていた。これは、事前キャリア・パスポートの図5の質問により、行事を通して得られる気づきが意識されていたことによるものと思われる。特に「体験を通して気が付いた、自分のよいところ」を尋ねる質問では、「意外と」や「わかった」、「思った」といった表現が多くあり、これまで気付けていなかった自分のよさを知ることができた生徒もみられた。今後の見通しを尋ねた質問への回答では、就業体験を通して社会に出るために必要な能力に気づき、今後の生活で意識したいことに言及した記述が多くみられた。回答の仕方を示すことで、就業体験での気づきを上手く引き出すことができた。

表3 事後キャリア・パスポート（就業体験）回答

生徒の回答：体験を通して気が付いた、「自分のよいところ」
・ <u>意外と</u> コミュニケーションが取れる <u>とわかった</u> 。 ・話を聞くのがうまい <u>と思った</u> 。 ・気がついた所があれば進んで行動できたところだ <u>と思う</u> 。 ・裏方が向いていることが <u>わかった</u> 。
生徒の回答：「社会に出るために必要だと感じたこと」と「今後の生活で心掛けたいこと」
・あいさつや礼儀の大切さを感じた <u>ので</u> 、今後の生活では自分から聞こえる声で挨拶を <u>心掛けたい</u> 。 ・コミュニケーションスキルが必要だと感じた <u>ので</u> 、今後の生活では相手の目を見て話をすることを <u>心掛けたい</u> 。 ・社会に出るうえで時間を守るということはとても大切になると感じた <u>ので</u> 、今後は時間を見て行動する <u>ように心掛けたい</u> 。 ・皆が身だしなみをしっかり整えられているように感じられた <u>ので</u> 、今後の生活では清潔なものを身に着け、常に衛生的でいる <u>ように心掛けたい</u> 。

イ 職業・学問探究（9月6日、13日、20日、27日実施）

総合学科の生徒を対象に、4週にわたって職業や学問への理解を深める職業・学問探究が行われた。金曜日6限目の総合的な探究の時間内で計画されており、1週目に税理士の講師を招いた進路講演会、2・3週目に企業や大学・専門学校の方を招いた職種・学問に関する講座、4週目に振り返りを行った。生徒は2・3週目に話を聞く職種や学問を事前に候補の中から選んでおり、生徒によって聞いた話は異なる。

表4は、事前キャリア・パスポートの質問の一部である。前回のキャリア・パスポート（就業体験事後キャリア・パスポート）の回答を振り返る質問を用意し、7月の就業体験で得られた自己理解を改めて確認することや、「働く目的」について選択肢から回答することを依頼した。

表4 事前キャリア・パスポート（職業・学問探究）質問

自己理解に働きかける質問事項（＜ ＞内は働きかける自己理解を示している。）	
・就業体験の事後キャリア・パスポートで回答した、2日間通して気が付いた「自分のよいところ」は、将来働いたり、生活したりする上で、どのような場面で役立ちそうですか。＜適性＞ ・あなたが考える「働く目的」は何ですか。あてはまるものを以下からすべて選んでください。	
＜価値観＞	
☐ 生活のため	☐ 経済的に豊かな生活を送るため
☐ 自分自身の成長のため	☐ 人や社会の役に立つため
☐ 自分の力を試すため	☐ わからない・考えたことがない
☐ その他（ ）	

表5 事後キャリア・パスポート（職業・学問探究）質問

選択肢から回答させる質問事項（＜ ＞内は働きかける自己理解を示している。）
・あなたが考える「働く目的」は何ですか。あてはまるものを選択肢からすべて選んでください。 ＜価値観＞（選択肢は事前キャリア・パスポートと同様）
記述形式の質問事項（＜ ＞内は働きかける自己理解を示している。）
・お話を聞いた仕事や学問は、自分に向いていると感じましたか。 <u>理由</u> も教えてください。＜適性＞ ・職業や学問に対する考えはどのように変化しましたか。 <u>例にならって</u> 記述してください。
＜興味・関心＞
例 「話を聞く前は〇〇のような考えだったが、話を聞いて□□のような考えに変わった。」 「話を聞く前は△△くらいの知識しかなかったが、話を聞いたことで、学問と自分の経験とが結びつき、一層××学に興味を持った。」

事後キャリア・パスポートでは、選択肢から回答する質問と記述で回答する質問を用意した（表5）。選択肢から回答させる質問は、アンケートのように事前事後の価値観の変容をみとることを目的とした（図6）。記述形式は事前事後の変容を気付かせるよう、理由を記述させたり、例にならって記述させたりした。

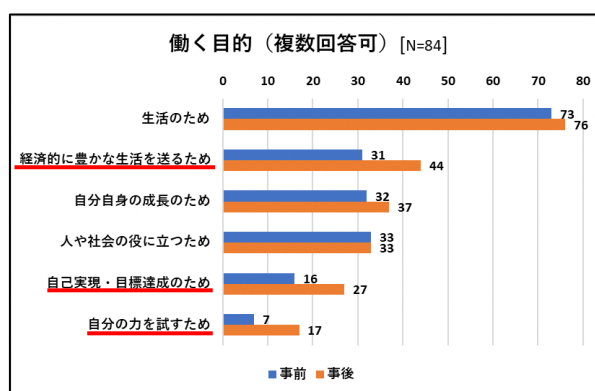


図6 事前事後の比較（職業・学問探究）

表6は、生徒の回答の一部である。「お話を聞いた仕事や学問は、自分に向いていると感じましたか。理由も教えてください。」の質問への回答では、話を聞いた上で自分への適性の有無を記述できていた。自分には「向いていない」と答えた生徒の中には、自分に不足している能力への気付きについて回答している者もいた。また、「職業や学問に対する考えはどのように変化しましたか。例にならって記述してください。」の質問への回答では、就業体験時と同様に、回答例を示したため、多くの生徒が前後の考え方の変容を表現することができた。この質問は、自己理解のうち、＜興味・関心への気付き＞に働きかけることをねらって設けたが、職業観など＜価値観への気付き＞

を見いだしたと思われる記述も多くみられた。

表6 事後キャリア・パスポート（職業・学問探究）回答

お話を聞いた仕事や学問は、自分に向いていると感じましたか。理由も教えてください。＜適性＞
・もともとイラスト系に行きたいと思っていたが、今回の話を聞いて Web デザイナーに興味を持った。理由は、イラストを使うだけでなく自身の発想力や、技術を必要とするから。私は淡々とやることよりも考えて作ることが好きなので、 <u>向いている</u> と思った。
・保育・幼稚園教育も動物系のお仕事もコミュニケーション力が必要ということがわかり、少し <u>向いていないかもしれない</u> けど、これからコミュニケーション力を上げていきたいなと思いました。
職業や学問に対する考えはどのように変化しましたか。例にならって記述してください。＜興味・関心＞
・話を聞く前は仕事とは生活をするためのものだという <u>考えだったが</u> 、話を聞いて社会の役に立ったり、お客さんを喜ばせたりすることが大切という考えに変わった。
・聞く前は動物に関わることは数個しかないと <u>思っていたけど</u> 、100 種類以上の仕事があるということを知り、前よりも少し興味を持ちました。
・学力も大切 <u>だけど</u> 、社会人になると周りの人とコミュニケーションを取ることが多くなるため人間力も大切になってくるということがわかりました。

ウ 修学旅行（11 月 26 日～11 月 29 日実施）

11 月末に修学旅行が実施された。旅行先は沖縄で、行程には平和学習や民泊が含まれた。

表7 は、事前キャリア・パスポートの質問例である。修学旅行を通して発揮したい資質・能力などを選択肢から回答を依頼した。選択肢には修学旅行で育成したい資質・能力を並べた。括弧書きで資質・能力の説明をそれぞれ記載することで、生徒が具体的に資質・能力をイメージできるように工夫した。また、その資質・能力を選んだ理由を記述形式で回答する質問も設けることで、生徒が自身の特徴や性格を分析することをねらった。

表7 事前キャリア・パスポート（修学旅行）質問

自己理解に働きかける質問事項（＜ ＞内は働きかける自己理解を示している。）
・次のうち、あなたが修学旅行中に発揮できそうな資質・能力はどれですか。特にあてはまるものを次の中から1つ選んでください。＜適性＞ ☐ コミュニケーション能力（他者との意思疎通を上手に図ることができる） ☐ 協調性（異なる立場や意見の人たちと協力しながら、目標達成のために行動できる） ☐ 柔軟性（その場の状況や変化に応じて適切な判断をし、行動できる） ☐ 問題解決能力（起こっている問題の原因を考え、解決に導くことができる） ☐ 自己管理能力（自分の思考や感情、行動を管理することができる） ☐ 主体性（自分の意思や判断に基づき、物事に進んで取り組むことができる） ☐ 計画力（スケジュールを前もって立て、物事を成し遂げることができる） ☐ その他（ ）
・上の資質・能力を選んだ理由を教えてください。＜適性＞

表8 は、表7 の質問への回答の一部である。理由を尋ねた質問への回答には、ねらい通り自分の性格や立場に基づいた意見がみられた。特に表8 の生徒Aは就業体験の時の経験を基に回答していた。この生徒は就業体験の事後キャリア・パスポートの質問「体験を通して気が付いた、自分のよいところを記述してください。」に対し、「思ったより話ができただけ」と回答していたことから、過去にキャリア・パスポートに記述した自分のよさを認識していることが伺えた。

表 8 事前キャリア・パスポート（修学旅行）回答

	修学旅行中に発揮できそうな資質・能力 <適性>	資質・能力を選んだ理由 <適性>
生徒 A	コミュニケーション能力	就業体験の時に会話をする事ができたから
生徒 B	協調性	相手の意見を聞き相手の意見を大切にできるから
生徒 C	柔軟性	昔から周りに目を向けて周囲の状況を伺うことが多いため
生徒 D	主体性	いろいろなことに興味を持ちやすいから
生徒 E	計画力	計画を立てて行動することが好きだから

表 9は、事後キャリア・パスポートにおける質問「修学旅行を通してあなたが成長したと感じること」への回答の一部である。生徒がそれぞれ事前キャリア・パスポートで回答した「修学旅行中に発揮できそうな資質・能力」の成長を感じられた生徒がみられた。また、選択した資質・能力以外の資質・能力に関する記述もみられた。これは事前キャリア・パスポートで**表 7**の質問への回答を通して、修学旅行中の様々な場面を想像できたことが、修学旅行中の意識や行動にも少なからず影響したのではないかと考えられる。

表 9 事後キャリア・パスポート（修学旅行）回答①

修学旅行を通してあなたが成長したと感じることを記述してください。 <適性>
・自分から積極的に声をかけたり、できることを探して行動できたりしたこと。 ・私は初対面の人と話すのが苦手ですが、民泊を通して、沖縄の地元の方とコミュニケーションを取ることで自分から話しかける力がついたと思います。 ・こまめに時間を見ながら計画通りに行動するところと、もし、計画通りにいなくても臨機応変に対応できるようになったところ。 ・友達と楽しく話しているときなどに、一步引いて「他の友達も楽しめているかな」と気を配ることができたこと。

また、事後キャリア・パスポートに「修学旅行中に気が付いた同級生の「よいところ」を教えてください。同級生の名前も書いてください。」という記述形式の質問を設けたところ、たくさんの回答が得られた（**表 10**）。この質問は、「他人から見た自分」を知り、他人と自分の見方の差異を認識することで、さらに自己理解を深めることができると考え、設定した。今回の研究では十分な活用はできなかったが、記載者の名前は伏せてホームルーム通信等で記述を紹介することや、直接生徒に声掛けをするなどの活用方法が考えられる。

表 10 事後キャリア・パスポート（修学旅行）回答②

修学旅行中に気が付いた、同級生の「よいところ」を教えてください。同級生の名前も書いてください。
回答（同級生の氏名は省略） ・ホテルの階段を登る際にキャリーケースを運んでくれた。 ・民泊のときに受け入れ先の方が「一人来て」といったときにもすぐに動いていて、自分のことを後回しにしながらも周りのためにと動いてくれていました。 ・みんなが食べ終わったお皿をひとつに重ねていた。民泊のとき率先して果物を切っていた。 ・班の人の財布がなくなったとき、自分がなくしたかのように率先して探していた。

エ 進路ガイダンス（12月18日実施）

2学期末に進路ガイダンスが行われた。生徒は進路希望に応じて、企業や大学・専門学校の方から説明を受けた。9月に実施された職業・学問探究は業種・職種や学問の説明が主であったが、進路ガイダンスは複数の企業や学校の概要説明を聞くことが主である。

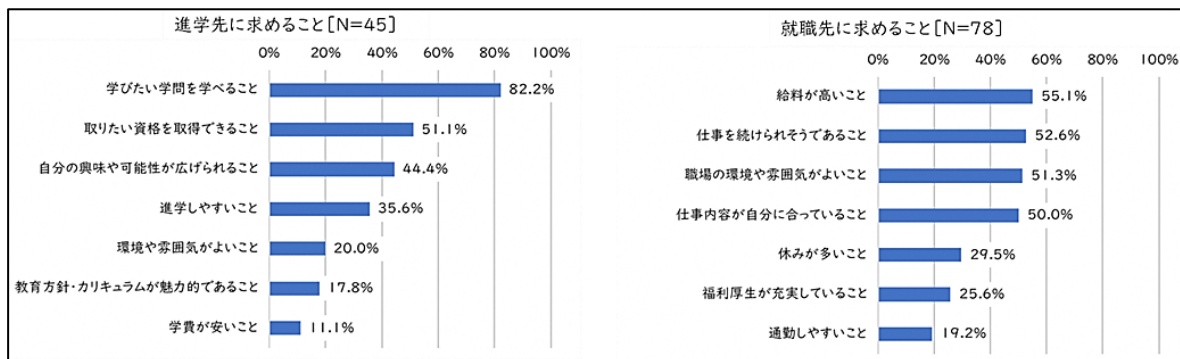


図7 事前キャリア・パスポート（進路ガイダンス）回答

事前キャリア・パスポートでは、進路ガイダンス前の進路への価値観を確認してもらうため、「進路先（進学先または就職先）を考える時、あなたが求めるものは何ですか。」という質問を設けた。選択肢から3つまで選択してもらい、選択した理由も記述してもらった（図7）。また、事後キャリア・パスポートでは、進路ガイダンスを通して得た知識や考え、進路に向けて行動していきたいと感じたことの記述を依頼した。表11は、これらの質問への回答の一部である。行事から得られた新しい知識や考えから自分の価値観を見いだした回答がみられた。また、それによって今後進路に向けて取り組みたいことが明確になった回答もみられた。

表11 事後キャリア・パスポート（進路ガイダンス）回答

あなたは「進路ガイダンス」を通して、どのような知識や考えを得ることができましたか。自由に記述してください。 <興味・関心><価値観>
・意外と女性が活躍している仕事がたくさんあり、仕事の偏見で進路先の選択肢を狭めないで調べることが大切だと感じました。 ・自分の知らなかった職種などの知識が増え、まだまだ自分から調べていかなければいけないと思いました。 ・自分が何をしたいのかが分からなくて、もう就職ができれば良いと思っていたけど、やっぱり自分が興味を持って働ける職業を探したいと思いました。
「進路ガイダンス」を終えて、進路に向けて行動していきたいと感じたことはありますか。自由に記述してください。 <興味・関心><適性>
・自分が入りたい企業で何をしたいかきちんと考えたうえで、キャリアアップが目指せる将来選択をしていきたいと思うようになった。 ・企業や会社について調べたり、進路室で過去の求人票を見たりしたい。 ・オープンキャンパス等に積極的に参加したいと思った。 ・進学を考える大学の入試方法についてもっと調べること。 ・自分のやりたいこととあっているかどうか、職場環境はどうなっているのか調べたい。

(7) 事後アンケートの実施

事前アンケートで尋ねた質問項目に加えて、キャリア・パスポートに関する質問項目を設け、事後アンケートを12月中旬に実施した。結果の分析は、事前・事後の両アンケートに回答した生徒126名を対象とした。

ア 自己理解と進路への主体性に関する項目（事前事後の比較）

6件法で回答してもらった自己理解に関する5つの質問項目について、事前・事後アンケートの結果を比較した。＜適性への気付き＞と＜価値観への気付き＞に関する質問については、肯定的な回答（以下、6段階の回答の6～4）の増加はみられなかった。＜興味・関心への気付き＞に関わる質問で、有意な差とはいえないものの、肯定的な回答の割合は増加した（Wilcoxonの符号付き順位検定、 $p>.05$ ）（図8）。また、進路への主体性に関して6件法で回答してもらった質問「自分から進路について考え、行動していますか」についても事前・事後で比較したところ、有意な差はみられなかった（Wilcoxonの符号付き順位検定、 $p>.05$ ）が、最も肯定的な「6：よくあてはまる」の回答割合が事前アンケートと比較して4ポイント増加し、最も否定的な「1：まったくあてはまらない」の回答割合が4ポイント減少した（図9）。

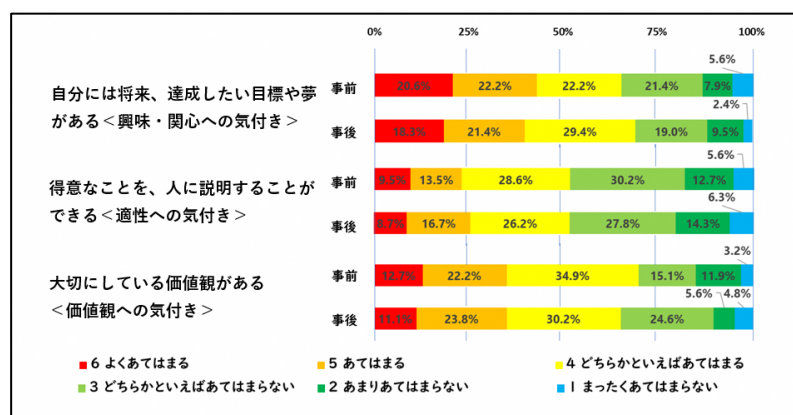


図8 事後アンケート（自己理解）[N=126]

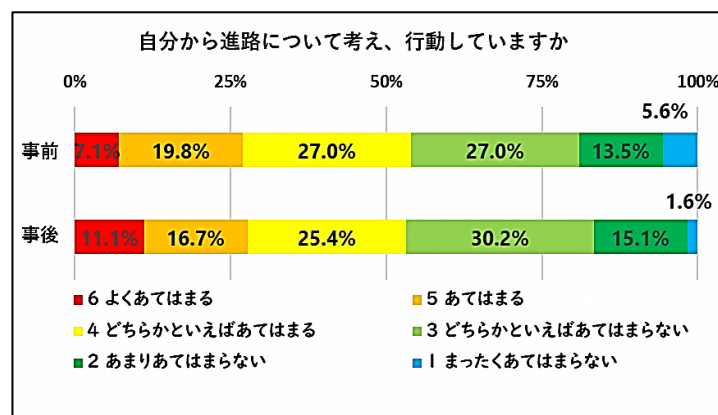


図9 事後アンケート（進路への主体性）[N=126]

イ 事後アンケートでの追加質問項目

(7) 自己理解と進路への主体性に関して

「キャリア・パスポートは、自己理解を深めることに役立ちましたか。」については88.1%の111名の生徒が「はい」と回答した。図10は、これらの生徒に対して、キャリア・パスポートのどのような点が自己理解に役立ったと思うかを尋ねた結果である。「今後の生活に見通しを持たせる点」と「自分の考え方の変化や新たな気付きを毎回記述する点」を選択する生徒が多かった。また、自己理解の深まりが進路への主体性を高まると思うかについても6件法で尋ねたところ、8割を超える生徒から肯定的な回答を得られた（図

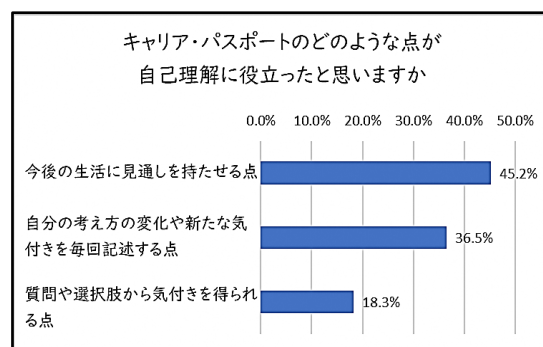


図10 追加質問項目① [N=111]

11)。この結果から、今回作成したキャリア・パスポートが多くの生徒の自己理解を深めることに役立ったこと、自己理解の深まりが進路への主体性に効果があることが示唆された。

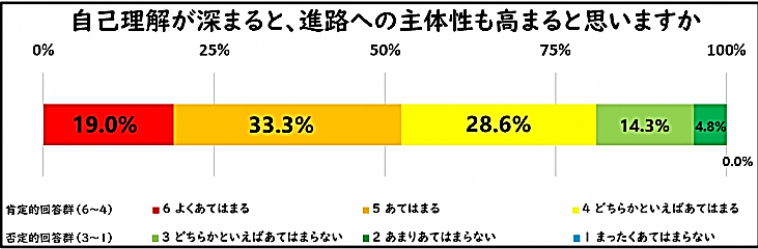


図 11 追加質問項目② [N=126]

今回作成したキャリア・パスポートのどのような質問が自己理解を促すことに特に効果的であったかを考察すると、キャリア・パスポートの回答から次の2点が挙げられる。1点目は、行事を通してどのような自己理解が期待できるかの見通しを持たせた質問である。例えば、修学旅行の事後キャリア・パスポートの「成長したと思うところ」への回答には、事前キャリア・パスポートの選択肢にあった資質・能力に関わる記述が多く見られた。行事の中で自分が資質・能力を発揮する姿を想像しながら回答することで、自分のよさに気付くことができたと考えられる。2点目は、回答の仕方の例を示した質問である。「行事の前は〇〇のような考えだったが、行事の後には□□のような考えに変わった。」や「行事を通して〇〇と感じたので、□□を心掛けたい。」のように、回答の例を挙げることによって、生徒の考えが整理され、考え方の変化や新たな気付きを導きやすくなったのではないかと考えられる。

(イ) キャリア・パスポートの形態に関して

今回の研究では、生徒は Google フォームで活動の記録を残した。活動の記録を残すには、Google フォームと紙媒体のどちらが適しているかを尋ね、そのように考える理由も合わせて回答を得た。図 12 は、活動の記録を残す方法として Google フォームと紙媒体のどちらが適しているかという質問への回答結果である。図 12 を見ると、65.1%の生徒が Google フォームと回答している一方、紙と回答している生徒も 17.5%と、2割弱程度いる

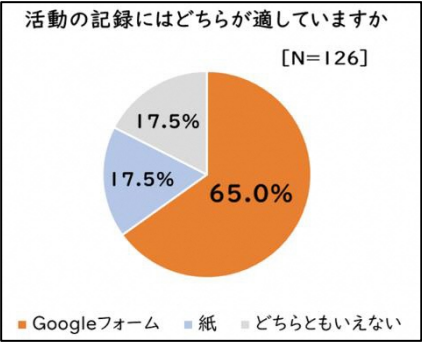


図 12 追加質問項目③-1

表 12 追加質問項目③-2

Google フォームが適している	紙が適している
・ 早く文字を打ち込めるし、見返すのも楽だから。 ・ 自宅やバスでの移動中でもスマホなどで取り組むことができるから。 ・ 管理が楽だし紛失する心配がない。 ・ 紙が無駄にならない。 ・ データとして残せるし、字が読みやすいから。 ・ 間違えたところをすぐに消せる。 ・ 回収する手間が省けるから。	・ しっかりと手元に残るから。 ・ ネットだと不具合で見れないときがあり大変。 ・ 見返しやすいから。 ・ 紙の方が自分としては管理がしやすいから。 ・ 小学生の時から紙だったから慣れている。 ・ 書くことで頭に残るから。 ・ パソコンを忘れたり、充電が切れたりする場合があるから。

ことがわかる。**表 12** は、それぞれの主な理由である。Google フォームの方が適していると回答した生徒の意見で多かったのは、管理のしやすさや入力と見返しの手軽さを理由にしている意見であった。一方、紙の方が適していると回答した生徒の意見を見ると、これまで紙での記録が一般的であったため慣れているというもののや、手元に残ることへの安心感や見返しやすさを挙げているものが多かった。

対象学年部の先生方にも、Google フォームで活動の記録を残すことのよさについて、選択肢からの複数回答または自由記述で回答を依頼した（**図 13**）。Google フォームが適していると答えた生徒の記述内容に加え、教員側での共有や提出状況の確認のしやすさへの回答が多かった。

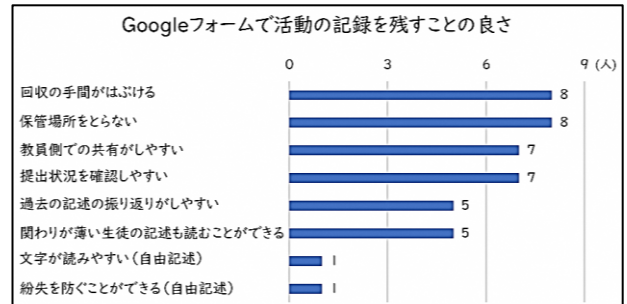


図 13 教員への質問 [N=9]

5 研究のまとめ

(1) 成果

事前・事後アンケートの比較からは自己理解や進路への主体性に関して有意な差を見いだすことはできなかった。しかしながら、事後アンケートの追加質問項目では、キャリア・パスポートが自己理解に役立ったと回答した生徒が多く、自己理解が深まると、進路への主体性も高まると感じた生徒も多かった。このことから、自己理解の深まりを図ることは、進路への主体性を高めることに寄与していると推察された。キャリア・パスポートの記述からは、自己理解に関わるものが多数みられた。質問項目を分析した結果、①行事前に「行事を通してどのような成長や変容が期待できるか」といった見通しを持たせること、②回答の仕方の例示等によって、生徒の考えを整理させることの2点を意識したキャリア・パスポートを作成することで、自己理解の深まりが期待できることがわかった。考え方の変化や新たな気づきの記述を促すことで、自己理解の深まりに役立つと推察される。

(2) 課題

ア 生徒が過去の記述を見返す機会が限られた

今回の研究では Google フォームの自動送信機能を用いたため、生徒は Gmail から過去の回答内容を確認することができた。しかしながら、**図 14** にみられるように、生徒たちの 42.3%が「見返したいと思ったことはない」と回答している。キャリア・パスポートには前回の回答を見返すことを促す質問も用意したが、すべての

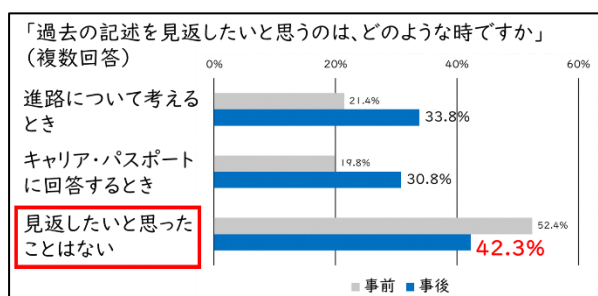


図 14 アンケートより [N=126]

生徒に過去の記述を見返す習慣をつけるまでには至らなかった。そこで、学期末や進路希望調査の回答時などに過去の記述を見返し、整理する機会を設けることも検討すべきだと考える。

イ フィードバックの方法が限られた

教員はスプレッドシートにより、Google フォームで得られた生徒の回答のすべてを一度に閲覧できた。一方で、一人一人へのフィードバックの方法が声掛けや面談での活用等に留まってしまった。紙媒体であれば回答にコメントをつけて返却するところであるが、今回の手法ではそれが難しかった。また、ジョハリの窓に代表されるように、自己理解には他者からの評価が有効であるとされる。教員や他の生徒からの評価を伝える方法も含めて、適切なフィードバックの方法も検討が必要である。

謝辞

本研究の遂行にあたり、協力校の皆様には多大なるご協力を賜りました。特に、第2学年の先生方におかれましては、アンケート調査やキャリア・パスポートの活用の際し、生徒への丁寧な説明や、回収作業へのご尽力など、多大なるご支援を賜りました。生徒の皆さんには、キャリア・パスポートの活用に積極的に取り組んでいただき、本研究の円滑な遂行に大きく貢献していただきました。皆様のご支援なしに、本研究はここまで進めることができませんでした。改めて、心より感謝申し上げます。

【参考文献・資料】

- [1] 文部科学省(2023)「中学校・高等学校キャリア教育の手引き」
- [2] 文部科学省(2019)『『キャリア・パスポート』の様式例と指導上の留意事項』
- [3] 文部科学省(2018)『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』
- [4] 文部科学省(2011)「高等学校キャリア教育の手引き」
- [5] 文部科学省 中央教育審議会(2011)『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)』
- [6] 国立教育政策研究所(2020)「キャリア教育に関する総合的研究第一次報告書」
- [7] 国立教育政策研究所(2021)「キャリア教育に関する総合的研究第二次報告書」
- [8] 国立教育政策研究所(2018)「キャリア・パスポートって何だろう?『これまで』をキャリア・パスポートで『これから』に活かそう!」(パンフレット)
- [9] 国立教育政策研究所(2010)「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育 ―高等学校におけるキャリア教育推進のために―」(パンフレット)
- [10] エドガー・H・シャイン著 金井壽宏訳(2003)『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房